

支援の5領域 支援プログラム

健康 ・ 生活	・ 来所時、毎回非接触センサーによる体温測定や口頭での質問により健康状態を把握する。意思表示が難しい利用児には障害の特性等に配慮しながらその都度様子を確認、声かけをして注視していく。 ・ トイレや衣服の着脱等の生活習慣を身につけていけるようその都度補助をしたり声かけをしながら支援していく。 ・ おやつ作りを通して食育を行い、咀嚼・嚥下を適切に行える支援や正しい姿勢を保ちながら食事を楽しめる支援をしていく。
運動 ・ 感覚	・ 日常生活において必要な動作を日々の活動や生活を送りながら習得・改善に繋げていく。 ・ 関節が固まらないようストレッチやマッサージを取り入れていく。 ・ 散歩や公園遊びなどの運動療育により、関節の拘縮や変形の予防、体幹強化、筋力の維持・強化をはかっていく。
認知 ・ 行動	・ 数や色の概念を学び五感を刺激していく。 ・ その都度状況説明をする声かけをするなどして、周りの状況を認知し必要な情報だけを取得して行動に繋がられる力を養えるようにしていく。 ・ 感覚特性の傾向に配慮し、気持ちをクールダウンさせるためのタイムアウトルームやイヤーマフ等の装着などを取り入れていく。 ・ 音楽療法を通して、聴覚を活用する発達を促すとともに周りに合わせて行動する力を養う。
言葉 ・ コミュニケーション	・ 物と言葉が結びつくよう声かけをして言葉の理解を深めていく。 ・ PECSを活用したりジェスチャーを用いてやりとりをするなど、安心して意思の伝達が円滑にできるよう支援し表現の幅を広げていく。 ・ 日常生活の中で周りの人と関わりながら言葉を獲得していけるよう環境を整えていく。
人間 社会 関係 ・	・ 相手の気持ちや雰囲気気付きながらやりとりを楽しめるようにしていく。 ・ 指導者、利用児同士の信頼関係を深め人間関係を構築していき、社会性を高めていく。 ・ 少人数で出来る運動遊びや音楽療法を通して集団生活を楽しみ、慣れていけるよう支援していく。 ・ 利用児同士のやりとりでは指導者が間に入り気持ちを代弁していきコミュニケーション力を高めていく。